

第38回 廃炉・汚染水対策現地調整会議 議事概要

1. 日程

日時：平成29年3月17日（金） 14：30－16：30

場所：ホテルハマツ「右近の間」

2. メンバー

政府：

- ・高木原子力災害現地対策本部長（経済産業副大臣）
- ・後藤原子力災害現地対策副本部長
- ・復興庁：白井次長
- ・環境省：山尾課長補佐
- ・国土交通省：堂蘭河川環境調整官
- ・水産庁：竹葉増殖推進部研究指導課長
- ・文科省：村山企画官
- ・廃炉・汚染水対策チーム：田中特別対策監
秦対策官、柿崎企画官、湯本事務局総括
- ・廃炉・汚染水対策現地事務所：生越所長、木野参事官、本田調整官
- ・原子力損害賠償・廃炉等支援機構：上条現地事務所長、永井審議役

事業者：

- ・東京電力：石崎福島復興本社代表、増田プレジデント

有馬バイスプレジデント、石川廃炉推進Cプロジェクト統括管理センター長

オブザーバー：

- ・福島県：酒井主幹

規制当局：

- ・原子力規制庁：山形審議官、持丸調整官

3. 結果概要

■高木副大臣からの冒頭挨拶

◇本日も、御多忙の中、お集まりいただき感謝いたします。

◇3月11日で東日本大震災、福島第一原発の事故発生から7年目を迎えました。廃炉・汚染水対策は着実に進捗しております。今回の現地調整会議では、廃炉・汚染水対策の今年度の進捗状況とこれまで6年間の取組を総括的に振り返り、今後の課題について議論を深めたいと思います。

◇陸側遮水壁については、昨年3月末の凍結開始から間もなく1年になります。海側については、昨年10月に凍結が完了し、4m盤での地下水くみ上げ量は減少しており、着実に効果が現れています。山側については、3月初めから5箇所の未凍結箇所のうち4箇所の凍結を開始しており、その後の状況についても報告を受けたいと思います。

◇また、廃炉については、1月から2月にかけて、2号機の格納容器内部調査が行われ、圧力容器直下の状況を初めて確認できました。これは廃炉に向けての大きな一歩となったと認識をしておりますが、本件についても改めて報告を受けたいと思います。併せて、もう間もなく開始される1号機の調査の内容についても確認したいと思います。

◇その他、1から3号機原子炉注水量低減の進捗状況や、3号機の燃料取り出し用カバー等の設置工事の進捗状況についても報告を受けたいと思います。

◇本日も活発な御意見、徹底した御議論をお願いいたします。

(以上)

◇主な指摘事項

(●…東京電力からの回答)

▶ 資料 1－2

2 ページ目ですが、ドレンサンプピットの対策について、第 35 回の現地調整会議で当時の規制庁 山田審議官より、ピット内に貯まっている水の汚染源を確認すべく、放射能を調査・把握するよう指摘したと思うが、その後の進展はあるか。

●工事等の関係もあり、3 月 14 日にサンプリングを採取できた。データは現在も分析中であるので、次回ご説明させていただく。

▶ 資料 1－4

1F では P E 管への切替えて、1F では P E 管が多用されているが、原子力関係施設では通常使われていない。P E 管について、放射線による劣化や経年劣化等の評価を行っているか。

●P E 管については放射線照射による加速試験を行っている。元々腐食劣化に強く、耐震性に優れていることで使用しているが、放射線による劣化については引き続き、しっかり評価していきたい。

▶ 資料 1－6

本年度の進捗について、着実に進んできているのは見て取れる。県民も心配しているのは確かであるが、一步一步着実に進んでいることをしっかりと伝える必要がある。県民への見せ方として東電も注意深く報告してくれているが、曲がって伝わってしまうこともあり、この点については丁寧な説明をしてほしい。

▶ 資料 2 B

ストロンチウム処理水が昨年 9 月くらいに増加し、そのまま高止まりしているが、その理由は何か。

●昨年 10 月頃の大雨の影響で、処理量が増加したこと。また、その後、建屋内の滞留水の処理を優先的に開始したことから、ストロンチウム処理水の処理よりも建屋内滞留水の ALPS 処理が先行するものとなったこと。

▶ 資料 2 B

P. 48、P. 49 や A 3 の資料を作成いただき感謝。

今年の梅雨時期を迎えるにあたって多少懸念があるので以下 3 点お願いしたい。

1 点目はフェーシングの推進、2 点目は 4 カ所の凍結箇所への補助工法の早期実施、3 点目は最後の 1 カ所の凍結を梅雨よりも早く開始できるよう検討してほしい。

▶ 資料 2 B

フェーシングとともに屋根対策も併せて総合的に対策を講じて欲しい

4. 次回以降の日程

次回の開催時期については、決定次第事務方より連絡